

インタビュー



苫小牧市子ども・子育て審議会専門委員
(藤女子大学 人間生活学部保育学科・子ども教育学科教授)

こやま かずとし
小山 和利 さん

北海道職員として児童相談所長や児童自立支援施設長を務めた経験をもつ

児童虐待防止条例の内容を検討する、苫小牧市子ども・子育て審議会専門委員の小山教授にお話を伺いました

Q 児童虐待に至る家庭の特徴は？

多くの場合、子育ての負担感や社会的孤立、経済苦などいくつかの家庭の弱さが重なり、それが増幅して子どもへの虐待に至ります。家族内の困難な課題に対して自発的に解決を求める家庭に比べ、虐待に至りやすい家庭は、助けを求められなかったり、家庭を閉ざし続けているといった特徴があります。

Q そのような家庭に必要な支援は？

日々繰り返される日常の中で、虐待は徐々に形作られます。そのため、当事者は虐待の自覚がないというケースが多く、ときに虐待という評価に対して激しく憤慨します。しかし、実際は相当早い時期から小さな子育ての悩みを抱えていますし、支えがあればそれを解決する力も持っています。また、死に至るような重篤な虐待の加害者からも、相談は成立しなかったものの、匿名で連絡した形跡が多く残されています。そのため、いかに早期に支援を受けること、そして支えられることに慣れ、支援者との信頼関係を築くことができるかどうか、その後の虐待を防ぐための大きな分岐点だろうと思います。

Q 児童虐待が子どもに与える影響は？

理不尽な攻撃は、子どもの人への自然な依存心を壊し、いつも不安や不信を抱え、些細なことに対しても、怒りや憎しみの感情に支配されやすい心理状態に陥らせませす。不要な敵意を人に向けたり、逆に過度に人に甘えたり、その両極の心理状態が激しく交替する場合も見られます。また、ネグレクトは社会的な約束事にうとくなり、回避的・傍観的な心理状態を作り出し、日常的な対人関係に大きく影響します。思春期の家出や暴力、過度な無気力といった背景には、そのような心理特性が存在する場合が少なくありませんし、この状態からの回復は決して容易ではありません。

Q 児童虐待防止条例に盛り込みたい内容は？

児童虐待から子どもを守ることが大前提ですが、そのためには、全ての家庭における子育てのつまずきに寄り添い、支えることができる体制づくりが必要です。その体制づくりを積極的に推進させる理念と方法が盛り込まれることを願っています。

児童虐待防止条例について意見を募集します

意見提出期間 9月2日(水)～10月1日(休)

資料配布場所 こども支援課 (HP からダウンロード可)、市役所2階市民情報コーナー、勇払・沼ノ端出張所、駅前証明取扱所、各コミセン、植苗ファミリーセンター

ぜひ皆さんの
ご意見を
お寄せください!



7月30日(休)／苫小牧市役所

苫小牧市観光親善大使委嘱式

今年は、港まつりが新型コロナウイルスの影響で中止になったため、ハスカップレディの募集も中止となりました。そこで、昨年「ハスカップレディ」に選ばれた(左)青木玲奈さん、(右)知本あかりさんが、今年も活動してくれることに！異例の2年目となりましたが、お二人の応援をよろしくお願ひします。

表紙から

令和3年度採用 市職員
の募集／令和2年度
員の募集／令和2年度
育休代替任期付職員
募集／05月31日
ZUMBAに集まれ！
子ども体験教室／
編集後記 ほか